

# 校長通信（5月号）

May/31/2024/ VOL 021

## 「非常識」になるため

僕は幼い頃から志村けんさんが好きです。2020年3月29日に新型コロナウイルス感染症によりこの世を去ってからも、今もなお、お茶の間に温かい笑いを届けてくれています。『バカ殿』『変なおじさん』といったキャラクターのイメージに引っ張られがちですが、志村けんさんはテレビからは想像できないほど真面目な性格で、お笑いという仕事に対して誰よりも真剣に取り組んでいました。どれだけ疲れていても、どれだけ帰りが遅くなっても、寝るまでの間に映画やドラマを必ず鑑賞し、そこから自分のコント番組や舞台に活かせるものがないかと、常に研究をしていました。まさに「プロフェッショナル」です。そんな志村さんが残した言葉で、今回は皆さんに紹介したいものがあります。

**“非常識なことをするためには、まず常識を知らなきゃいけないんだよ。常識を知らないと本当のツボというものわからない。常識は基本線で、お笑いはその常識をひっくり返すところで、コントとして成り立っている。だから笑えるワケよ。お笑いに限らず、常識をバカにする奴に、常識を超えたことは絶対にできない。”**

この言葉は、すべてに当てはまるものだと感じます。笑いは、ある意味、非常識な空間を表現しているものであり、時には「性」や「死」といったタブーとされるものを題材にすることもありました。現在ではコンプライアンスも厳しくなっているものの、笑いには非常識な視点が不可欠であるのは間違いありません。しかし、非常識さを追求していくためには、常識を知っている必要があります。これを別の表現を使うと「型を知らずして、型破りはできない」となります。

『キャプテン翼』というサッカーをテーマにした漫画で、主人公の大空翼くんが、対戦相手に苦戦しながらも、誰も真似できないような大技（オーバーヘッドキックなど）を決め、チームを勝利に導きます。あるいは、『スラムダンク』では、高校生離れした選手たちが、ダンクシュートを次々に決めていきます。それを見た現実世界の子どもたちは、自分たちも同じような技をしてみたいと思い、真似をするわけですが、できるわけもなく・・・（その子供達の中に僕もいたわけですが）。常識はずれな、型破りな大技ばかりに目が行きがちですが、試合中のプレーのほとんどは、常識的なプレーの数々であり、基礎的なスキルによるものです。基礎が身につくことで初めて大技ができるのであり、基礎がどういうものかが理解できているからこそ、大技というアイデアが生まれていきます。

さて、我々に関連づけて考えてみましょう。今、社会では、これまでの当たり前や常識といったものにとらわれることなく、新たなチャレンジをしていこうという声があります。この言葉の裏には、今の日本が置かれている社会課題（国内経済の行き詰まり、政治への無関心、少子高齢化、地域コミュニティの消失、海外人材の国内流入・・・）を打破するための、斬新なアイデアやビジネスモデルが求められているという苦しい現状があります。確かに、これらを解決していくためには、一筋縄ではいかず、常識にとらわれていてはまず解決することは不可能です。非常識で型破りなものが必要なのは間違いありません。しかし、それ以上に確かなのは、常識や型を知ること、そして、常識と型を身につけることが大前提であるということです。

志村けんさんの非常識さへの挑戦の裏には、誰よりも常識や型を理解し、それを逆転の発想で捉え直しているところがあります。もちろん、志村さんのお笑いがこれほどまでに人を惹きつける理由は他にも限りなくあります。一つの笑いを生み出すために、誰よりも真剣にこだわり続けるという姿勢あってこそ。好きなことをとことん突き詰め続けるという探究心があってこそ。どんなに認められなかったとしても、諦めずにやり続けてきた執念があってこそ。そこに、常識/型という、もっともお笑いとは程遠いと感じられるものを身につけているから、日本を代表するコメディアンになったということなのかもしれません。僕らも、まずは常識と型を大切にするというところからスタートしましょう。

## ワクワクを体感する「趣味講座」

御殿場西高校では生徒たちの「好き/得意」を「ギフト」と考えています。「ギフト」とは贈り物であり、すべての生徒たちが生まれながらにして持っているものだと考えています。ギフトを発揮し、磨き続け、いつかそれが自分の人生を切り開く武器となっていき、今度は地域や社会に対してギフトを送る側になってもらいたいと思います。

さて、そんな学びを実践していくために一番大切なことは何か。それは「楽しむ」ことです。それが自分の何につながるのか、成果として何が期待できるのかをひとまず脇に置いて、純粋に楽しむ、ワクワクするということです。今回の趣味講座は「楽しむ」「ワクワクする」という姿を大人たちから学ぼうということで、先生の趣味をベースに講座を開いてもらいました。多種多様な講座が開講され、生徒たちが自由に選択します。あいにくの大雨で、急遽内容が変更となった講座もありましたが、生徒も先生も好きなことに一緒にワクワクできる時間を楽しんでいました。好きを学ぶにするとって素敵ですね！



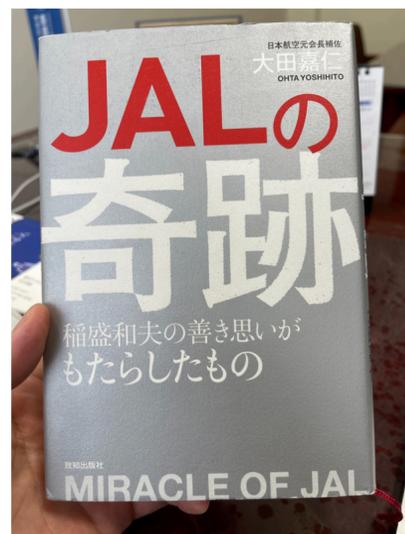
## 勤続30周年表彰

勤続30周年記念を迎えた三人の先生がいます。齊藤光高先生、横山洋一先生、川本耕三先生です。30年間もの間、本校を支え続けてくれています。いい時も、大変だった時も、生徒たちや地域のために全力で身を捧げてくれました。先生方がいることは本校の財産です。新しく掲げている「居場所と出番を創り続ける学校」において、3人の先生方がさらに輝いてくれることと思います。これからもよろしくお願いします！



## 今月のおすすめ本

今月おすすめしたい本は「JALの奇跡—稲盛和夫の善き思いがもたらしたもの」（大田嘉仁, 2018）です。当時、誰もが再建は不可能だと言っていた日本航空（JAL）を稲盛和夫氏がどのようにして建て直したのかを綴っています。稲盛氏が何よりもまず重要視したことは「考え方」でした。知識やスキルよりもまずは正しい考え方を身につけることが第一であるということを強調しています。そして、成功の方程式として「人生・仕事の結果＝考え方＋熱意＋能力」と語っています。どれだけ熱意があっても、能力が高かったとしても、考え方がマイナスであれば結果はマイナスになっていくというものです。シンプルですが、間違いのないと感じます。ぜひ読んでみてください。



## 保護者の皆様へ

いつも本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。早くも5月も終わり、今年度も残り10ヶ月。あっという間に時間が過ぎていくのを感じます。この2ヶ月の間に、私ごとですが第2子が誕生しました。出産というものに初めて立ち会い、命が生まれるその瞬間を経験することができ、とても感動的でした。その一方、何もできずあたふたする自分もいて、男は本当に無力だと痛感しました。母の力は偉大だなと改めて実感しています...

二児の親になって思うのは、保護者の皆様もこうして大変な思いをしながら育児、家庭、仕事というものに向き合ってきたのだということです。その中で大変なこともたくさんあったと思いますし、さまざまなことを乗り越えながら今があるということ。だからこそ生徒たち一人ひとりを私たち学校は大切にしていかななくてはならないこと。そんなことを感じる今日この頃です。

